

■ ドル/円の当面の上値（戻り）メドは？

前回更新分の本欄では「テクニカル的に見ると既に円は下落局面に突入している」と見ることもでき、下図でも確認できる通り、ドル/円にしても 3/23 安値を底に目下はリバウンド局面を迎えていると捉えることができるように思われる」などと述べた。

下図においてもあらためて確認できるが、まず 4 月に入ってドル/円が 21 日線をクリアに上抜ける展開となった点が見逃せない。また、昨年 11/6 に 114.73 円の高値をつけてから長らく繰り返されてきた「高値切り下げパターン」が、4/5 に一時 107.49 円まで上値を伸ばした（3/13 高値=107.29 円を超えた）ことで終了したと考えられる点も大きい。



さらに、目下のドル/円は一目均衡表の日足「雲」のなかに潜り込む恰好になってきているうえ、日足の「遅行線」も日々線を上抜けてきている。「なかなか手強い“壁”」と見られていた分厚い日足「雲」の下限水準をブレイクしてきたことのインパクトは小さくないし、一目均衡表の考案者（故細田吾一氏）が「これが最も重要」と述べていた遅行線の日々線ブレイクは、やはり重要な変化の一つと断言していいだろう。

なお、ドル/円が 2015 年 6 月に 125.85 円の高値をつけて以降、現在もなお三角保ち合い（トライアングル）を形成していると考えた場合、このトライアングルは A-B-C-D-E の 5 波構成になると見込まれ、そのうえで 2016 年 12 月高値からの調整を C 波とすると直近（3/23）安値=104.64 円は C 波の終点=D 波の起点と考えることもできるのではないかとと思われる。

ちなみに、このトライアングルの上辺（2015 年 6 月高値と 2016 年 12 月高値を結ぶレジスタンスライン）は現在 112 円台後半あたりの水準にあり、その点を踏まえたらうで D 波の目標値というものを見ると概ね 110 円あたりという水準が想定される。

もっとも、目先はまず昨年 11 月高値から直近安値までの下げに対する 38.2%戻し=108.50 円処や 89 日線（現在は 108.67 円）あたりが目安になるものと思われ、当然、それらの水準を試す過程では日足「雲」を上抜けるという展開が必要となる。

そのためには、相応に強い円売り・ドル買い材料が必要になるものと思われるが、ひとまず今回の日米首脳会談において「両国の貿易不均衡の問題に対する想定以上に強い言及がなされなかったこと」はドル/円の強気材料と断言していいだろう。また、来週 26-27 日の日程で行われる日銀金融政策決定会合の結果や「展望レポート」の中身、総裁会見の内容などが円売り材料視される可能性も大いにあると個人的には見る。

（04 月 19 日 12:20）